

第2回 秋葉区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成28年1月28日(木)午後1時30分から午後3時15分まで
会場	秋葉区役所6階 602 会議室
出席者	秋葉区自治協議会委員 出席10名 教育委員 沢野教育委員、佐藤教育委員 事務局 教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課指導主事、新津地区公民館長、秋葉区教育支援センター所長・指導主事
議事	<p>1 開会</p> <p>2 教育委員挨拶 沢野教育委員</p> <p>3 出席者紹介</p> <p>4 平成27年度全国学力・学習状況調査結果について 事務局説明</p> <p>自治協委員 秋葉区の小学6年生は、市、県、全国と比べ成績がたいへんよいが、中学3年生は市と比べ下がっている。これをどう捉え、対策を講じているのか。中学生の家庭学習を充実させたいとの説明だったが、家庭に原因を求めてもよいものか。</p> <p>教育委員会事務局 小学校では子どもの実態に即したきめ細かな指導が充実し、その成果が成績に表れている。中学校も授業改善等の努力はしているが、まだ数値に結びついていない。今後も、より質の高い授業を目指した取り組みを支援していきたい。 先ほど、家庭学習の充実について話をしたが、家庭での学習不足から学力が高まらないということではなく、あくまでも、生徒の学習状況をトータルで見たとき、全国と比べ、まだ家庭学習に力を注ぐ部分があるのではということ。秋葉区はよいが、小学生も全国からみると家庭学習への取組がまだ足りない状況があり、全市的な課題となっている。</p> <p>自治協委員 小学校は伸びているのに、中学校が伸びていないのは心配。中学校は今の取組を続ければ数年経ったら伸びるだろうというように聞こえるが、秋葉区の中学校の授業力に問題はないのか。</p> <p>教育委員会事務局 中学校では、全校体制で生徒に即した授業改善に力を入れる必要があると考</p>

えている。

子どもの発達段階もあり、中学校では、教師主導型の授業スタイルの授業が多くなる傾向があり、これを、生徒が自ら学ぶ意欲をもち主体的に解決していく授業に変えていくように指導、支援を行っている。このような授業改善もだいぶ進んでいるが、授業改善には、これで十分ということはない。生徒に十分な力をつけるため、今後も支援していきたい。

自治協委員

小学校はよいが、中学校では悪くなるというのは秋葉区だけの傾向なのか。

教育委員会事務局

新潟市と全国平均を比べてみると、秋葉区と同じような傾向が見られる。中学校の授業改善、学力の向上の取組については、今後も取組を続けていかなければならないと考えている。

自治協委員

せっかく小学校の先生が頑張っ、全国や市よりもすばらしい結果を残しているのに、中学校で伸び悩むのは子どもにとってかわいそう。中学校の授業改善が進むよう、よろしく願いたい。

自治協委員

全国学習状況調査の小学校と中学校を比べると、「自分にはよいところがあると思いますか」は、小学校で全国を7ポイントほど上回っているが、中学校では15ポイント減って全国を下回る結果になっている。

この3年間で何が起こったのか。学習にも影響が出ているのではないかと思える。「将来の夢や目標をもっていますか」についても、15ポイントほど下がっている。これも学習意欲と関連があるのではないか。意欲が学習や学力にも影響を及ぼすように感じられ、何か問題や課題があるように思えた。

自治協委員

私は教員の免許がとりやすくなっていることが問題だと思う。もう一つ、国の問題だが教育実習の期間が短すぎる。また、たとえば母校での実習で評価が甘くなり、これが能力ある教員の採用につながっていないのではという懸念がある。

教師の中には基礎基本も分からない教師もいる。基礎基本をしっかり教えれば間違いなく子どもは伸びる。基礎基本が大事。

自治協委員

算数Bが他に比べ低いのはどう捉えればよいのか。また、その改善の工夫はあるか。

教育委員会事務局

B問題は、知識や技能を活用する能力を測るために作られたもの。A問題に比べると全国平均を上回っているものの、全国との差が小さいというところに課題がある。基礎基本を定着させることを大事にしながら、それをベースに身に付けた知識・技能を活用していく、子どもが主体となって考える授業を日常的に展開できるように考えている。

自治協委員

「普段、携帯電話やスマートフォン等の電子媒体を使った何かをやっていますか」の数値が低いが、全国的に低いとどんな問題が起きると考えるか。全国と比べ数字だけ低いと取り上げているのか、あるいは小さいうちから電子機器を使えないことが問題なのか。

理科に関して、小学校は全国と比べ 10%くらいよいが、中学校に行くと少し下がる。その原因をどうとらえているか。全国的に見ても同じ傾向なのかもしれないが、全国で、また秋葉区でこれを維持するためどんなことをしているか。また、しようしているか教えてほしい。

教育委員会事務局

理科の結果については、小中の差の大きさに課題を感じている。はっきり言えないが、理科は問題解決的な教科なので、実際に考えたり、試したり、話し合ったりすることが大事になる。全体的な傾向として、中学校の授業ではそういう部分が弱いと改善しようとしているが、うまくいっていない部分が出たのではないと思われる。生徒同士で話し合ったり、実験で確かめたりすることを大切にしながら授業改善を進めている。

電子媒体については、ICT の活用から考えると時間が増えるのは決して悪いことばかりではないと思うので、否定的な捉えをしないようにしたいと思う。しかし、中には望ましくないかわり方をしているケースも見られるので、そのあたりの状況をとらえるための指標として考えている。実際は各学校で生の子どもの姿と、この数値を照らし合わせながら見ていかなければならないと思う。

自治協委員

小・中学校とも「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」のように生徒の心情、心の動きに関して質問している項目があるが、こういう質問は、子どもが答えるには難しく、迷ってしまう問題だと思う。結果として 100%ではない。残りの数%を否定的な数値として捉えるのか、分からないとして捉えるのか。

教育委員会事務局

数値をどう捉えているかについては、実際の子どもの姿と合わせて考えてい

かないと分からないと考えている。ご指摘があった数%の数値だけからでは、本当に否定的な考えをもっているかどうかは分からないと思う。

この全国調査では、ここの部分は規範意識に関する質問領域にあたる。子どもの学力形成を考えたとき、知識・技能の習得だけではなく、それを支える基本的な生活習慣や、規範意識、思いやりといったことも含めてバランス良く育てていくことが大切であるという考え方がベースにあり、調査にこれらの項目が含まれている。

この調査については、もしも教師が見ている姿と調査結果の間にギャップが生まれたら、何か見過ごしているものがあるのではないかと問題意識をもって子どもたちを見つめ、教育の在り方を考えるための材料にしていきたいと考えている。

自治協委員

何%は否定的な考えをもっているかは分からないという回答が出てくるので、もう少し親切に、例えば補助的な質問項目をつけるなどしないと、子どもに対して不親切な、理解しがたい捉え方になる恐れがある。調査そのものがこれだよいか検証すべきだと思う。

教育委員会事務局

各学校では子どもの状況を把握するため、学校独自で各種アンケート等を行っている。数値では推し量れない内容についても把握するように努め、正確な子どもの実態を捉えるようにしている。

自治協委員

昨日の市長との懇談会の中で、30分以上28年度の展望についてお話を伺うことができ、暮らしがよりよくなるのかなと思った。

しかし、農業特区、BRT、6次産業、12次産業ばかりで、教育については全然触れなかった。教育も29年度に人事が新潟市と新潟県で全く別々になってしまうとか、統廃合の問題もある。

小学校で英語が始まる。私は個人的には、小学校の先生は英語の得手、不得手という大きな差があると思っているので、このまま数年が経つと非常に格差が出てくるのではないかと心配している。28年度の市の教育に対する展望があったら、簡単に説明してほしい。

教育委員

察するに、市長は教育に関心がないわけではなく、昨年、皆さんにご心配をかけたところ、興味をもっているだろうことについて話されただけだと思うので、否定的に捉えなくてもよいと思う。

教育委員会定例会などで、事務局がどんな準備をしているか聞いている。そ

の中でも、小学校の英語教育やこれからの国の方針の中の小中一貫教育など、様々な課題がたくさんある。

私は教育の専門家ではないが、話を聞きながら、教育委員会の皆さんはいろいろな課題に時間を費やし、対応していると感じている。

また、教育委員と市長との総合教育会議も今年から始まっている。その中で、いろいろな課題を市長から投げかけられ、それに対して教育委員として意見交換をたくさんさせてもらっている。

教育委員

市として教育ビジョンを打ち出しており、学・社・民の融合による教育ということで、まさにこのような場や、教育委員を各区担当にして、皆さまの声を聞こうという姿勢でやっている。

それを教育委員で共有、考えるなどいろいろなことをやっている。決して新潟市の教育に力を入れていないわけではないと感じている。

教育委員

先ほど教員の免許がとりやすくなったという話があった。採用に関しては、すでに新潟市独自で行っているのはご承知だと思う。免許がとれたから全員が採用されるわけではない。採用試験が一番重要と思う。私は教育委員になる前、民間選出の面接官をやった経験がある。民間の目からも、この人であれば素晴らしい教員になるだろうと思う方、またそうでない方もいる。複数の厳しい目で面接し、採用していることを実感している。ここにいる事務方の皆さんが、細かいところまで考えて活動されていることをご理解願いたい。

教育委員会事務局

教育ビジョンでは、政令市新潟が今後取り組む教育、方向性を目に見える形で計画を立てて取り組んでいる。

その中で、今まで教員採用は県の教育委員会、研修権、定数権も県の教育委員会にあったが、政令市になり、採用権と研修の権限が新潟市に下りてきた。それに基づいて採用し、先生方を育てる研修も自前でやっていくことで、教員の育成に取り組んでいる。29年度から税源移譲で、定数権も新潟市教育委員会に下りてくるので、これをフルに生かして取り組んでいく準備を進めている。

現在の教育ビジョン第3期実施計画の中では、今の時代の課題に取り組む施策も入れ込み、教育委員会全体で取り組んでいる。地域の皆さんのお声を聞く仕組みということで、教育委員との意見交換の場を作らせていただいた。いろいろなご意見を聴かせていただき、よりよい施策につなげていきたいと考えている。自治協議会の委員の皆さまには、教育のサポーター、応援団として、お力をお貸しいただきたい。

5 テーマ「子どもたちの健康と安全について」

意見交換

自治協委員

問題の子どもをどうにかしようということだけでなく、健全な子どもを増やしていくということではいけないと思う。放課後の子どもたちの過ごし方、居場所づくりについて、どのように考えているのか。子どもたちの放課後の居場所づくりを充実していかなければ、健全な子どもの育成はできないと思う。

先程問題になった子どもたちの規範意識などは、あれこれ大人が言うより、スポーツを通して自然と心に根付いてくるものだと考えている。学習の時間だけではなく、放課後の子どものあり方を充実したものにしていけるべきではないか。

教育委員

放課後の環境を整えたとしても、子どもの生活実態もあるので、難しいことだと思う。先日、秋葉区のある学校のウェルカム参観日に参加させていただいた。ロングの休み時間に、子どもたちがグラウンドで走り始めた。この学校ではロングの休み時間に走ることが日課と聞いた。各学校でいろいろと工夫していると感じた。

自治協委員

環境整備について、校舎などの耐震工事はほとんど終わったと思う。暗渠がある全天候型のグラウンドの学校はよいが、私の地区(新津第一小)は、学校開放でグラウンドを借りていても一雨降るとぬかるみができ使えなくなる。こういうことは、学校から要望がないと整備できないものなのか。

教育委員会事務局

各学校から、グラウンド、校舎、トイレ等の修繕、改築の要望が出てきている。市内の学校の老朽度を見て、順次計画的に限られた予算の中で整備しているというのが現状。大きな校舎の建設になると、国の補助金を活用して行わなければいけないが、国の予算枠もあり、もっと整備したいと思っても手のつけられない部分もある。

3.11 震災以降、耐震性を優先し、校舎、体育館の耐震化工事をしてきた。これが全部の学校に行きわたったので、今後は、老朽化の対応というところに重点を置いて、改築、改修をしていく計画である。

自治協委員

いじめについて、アンケートをとっても見つけられなかったとか、教師もいじめに気付かなかったとか度々テレビ等で報道される。もうそろそろこの方法だけでは十分でないことはみんなが気付いていると思う。もし新しい工夫などあれば教

えてほしい。

また、自分のことを言える子、また相談室等に相談できる子どもたちはよいが、問題は人数的には少ないかもしれないが、言えない子、自分で抱え込んでしまう子をどうやって見極めていくのか、戦略のようなものはあるのか。

区教育支援センター指導主事

学校訪問をしているが、小・中学校の先生が常に子どもをよく観察・理解することが第一の基本であると考えている。アンケート調査や生活ノートからも把握しようと努力している。その他にも、いじめアンケート自体をもっと工夫し、いじめを見えやすくするように改善を加え、いじめの認知度という感度をあげて発見しようとしている。教師の感度をあげるため、学校も教委も一生懸命やっている。

自治協委員

私は、校区のいじめ防止対策会議に参加し、しっかりとアンケートをとって見逃さない姿勢でやってはいるが、スマホ対策で立ち遅れているように感じる。私も全然分からないが、現実がどんどん先へ行ってしまい、先生も分からないと思うので、先生だけに頑張れと言っても無理な気がする。

教委の方で、指針と言うか、もっとスマホに強い人からアドバイスいただき、何とかしてほしいと思う。スマホの勉強会に出たこともあるが、話を聞いてよくわからない。早く何とかしないと見えない部分でのいじめというのが怖いと思うので、ぜひ、ご指導願いたい。

区教育支援センター指導主事

おっしゃるとおり、目に見えないところでのスマホを使ったいじめは、学校も親も分からない場合が多いと思う。それで人間関係が壊れたり、いじめの標的になったりすることもある。地域教育コーディネーターを中心に、小・中学校で親を対象にスマホの研修会、講習会を行っているが、肝心なのはスマホを与える親がどう考えているかであると思う。

自治協委員

正論ではないと思うが、いじめの問題が起きると、マスコミはすぐに教育委員会に回答を求めるが、基本的には責任は学校現場にあると思う。学校の先生方の姿が見えてこない。先ほど教師の資質の話が出たが、教師一人一人が真剣にいじめ問題を捉え、しっかり指導していかないと教育は成り立たない。現場で解決するという強い姿勢がないといじめ問題は解決しない。基本的には教師一人一人の資質に関わってくると思う。現場主義をもう少し重視することが大切なのは。

自治協委員

現場の大半は一生懸命だが、いじめは見えないところで始まるから、起きる。だから学校は教委の支援が必要となる。学校が早く頼める雰囲気をつくってほしい。ことが起こってから指導主事が乗り込んでくるのではなくて、問題はないかというような見方で学校を見るだけではなく、先生方たいへんじゃないですかとガス抜きをしてやるような働きかけもやってほしい。

自治協委員

いじめ問題の原因は親だと思う。小学校や塾の前を通ると、人の迷惑を顧みず、子どもの送り迎えに、平気で路上に車を止めておく親が当たり前にいる世の中。自分の子どもさえよければという親が多すぎるように感じる。競争社会で育ってきた世代が多いので、親が言っていることと学校が言っていることのギャップが大きい。

どういふふうにして人とコミュニケーションをとるのか、何を自分が役立てながら生きていくのか。親に対しての講演会やワークショップなどのアプローチを強めていく必要があると思う。

自治協委員

学校の教師がとても忙しいとよく耳にするが、具体的にはどういうことなのか。何がそんなに忙しくなったのか。

自治協委員

ガリ版刷りからパソコンに変わったが、楽になったわけではない。英語が始まる、アンケートがたくさんくる、これらはみんな現場の先生がやらなくてはならない。そして、研修会、授業研究をいっぱいやってくださいと。やらなくてはならないことがたくさんあるから子どもたちと遊ぶことができない状況になっている。

教育委員

昔と今の授業の雰囲気が全然違う。先生方は本当に勉強して、1時間を分刻みに、どう子どもに質問して、どう解答してくるか、そこでこういう気付きを与えようとか、授業に対して非常に勉強している。

新潟市は、マイスター制度等をやって授業の効率が上がってきている中で、このように成績がよくなってきているのだと思う。いじめに関しても、いろいろな研修がたくさんある。その他研修以外にもやらなければならないことがたくさんある。指導するためのカリキュラムも作らなければならない。現場の先生は一生懸命頑張っているが、こういった中で、時間が足りなくなっていると思う。

教育委員会事務局

教育に対する地域の期待が大きく、すべて教育で解決してほしいと言われる

ところがある。人権、環境問題、18歳に選挙権が下りてきて、高校生に選挙の意味づけを学ばせて投票率を上げたり、行政側も学校教育に対して要求・要望をしている。それが全部学校に求められ、限られた授業の時間内で、それをすべて子どもも先生方も対応しようとする。そうなってくると、子どもも先生も限られた時間の中で多忙感が出てきているのではないか。

子どもは次代の担い手だから地域に貢献してほしい、災害があった時にはこうしてほしいなど、小さいうちから子どもに学ばせたいという期待が大きくなってきている。それが現場の先生の多忙感につながっているのではと感じている。これは個人的な感想だが。

自治協委員

いろいろな分野からの要望があるという話だったが、これをフォローするためにも地域のボランティアをとということで、地域教育コーディネーターの活動を促していく姿勢が大事になってくると思う。いろいろと課題も見えてきているが、新潟市として、地域教育コーディネーターを全校に配置していることは素晴らしい事だと思う。

秋葉区の課題の中に、中学生のボランティアとして、地域との関わり不足があげられているのはどういうことなのか、状況を教えてほしい。また、生活習慣病について、小学4年生と中学1年生を対象に、生活習慣病の健診を希望制で実施しているが、その結果をどのように捉えているのか。

区教育支援センター所長

中学校のボランティアとしての地域との関わり不足というは、中学校区教育ミーティングの際、地域の方からよく聞かれること。小学校では、ボランティアがよく学校に入って、教育活動や課外活動等を盛り上げてくれる。一方、中学校は、できれば受け入れるだけでなく、中学生は積極的に地域の行事、祭りなどに参加してほしいという要望がたくさんある。中学生なので、地域に出て地域のよさを知る、キャリア教育などの面からも積極的にかかわってほしいということ。

教育委員会事務局

昨年は、年間22万人、1校当たり1280人ぐらいの学校支援ボランティアが学校に関わっている。やはり小学校が多く、中学校になると減少する傾向がある。

学校や子どもたちの発達特性があり、小学校は無条件で子どもとかかわってということもあるが、中学校では、学習支援にしても専門的知識を要求される場合もあるので、どなたでもよいという訳にはいかない。

中学生として地域に何ができるかという貢献活動が多くなってくるので、ボランティアの人数が多くならない傾向があることが最近分かってきた。

教育委員会事務局

生活習慣病については、希望者に受けてもらっている。秋葉区の受診率、医療率は市平均と同じ。ただ、要指導率が3%程高くなっている。小さいときから生活習慣病が心配されるというのは、日ごろの食生活の影響があると思うが、本当の原因は分からない。食生活、バランスのよい食事をとることは大人にも言えることで、生活習慣病の予防にもなるので、取組を保健給食課で行っている。弁当の日であったり、食の大切さを給食指導の中で指導していきたいと思う。

自治協委員

せっかく健診を受けられる機会があるのに受診率が高くないのはなぜか。

教育委員会事務局

自分自身の健康に心配がない子どもは受けないと思うが、隠れ肥満というようなこともある。せっかくの制度なので受けていただきたいと思っている。ただし検査を受けるのに1000円の自己負担があり、また、日程的にも複数日を設定するわけにもいかないの、受診率が低くなっていると思う。学校を通して受診をさらに周知していきたい。

自治協委員

小学校高学年で肥満傾向の割合がやや高く、小学校高学年から中学校にかけて痩身傾向の割合が高くなっているとあるが、何か矛盾してはいないか。秋葉区は13.1%の受診率だが、小学校の割合はどれくらいか。

生活習慣病の指導は、家でなかなか指導できないからこういう結果になると思う。どこでとなれば学校だろう。学校でやるなら教育委員会もぜひ家庭教育力を高めるために、学校を応援してほしい。

教育委員会事務局

受診率についてだが、秋葉区の小学校は15.8%で市の平均15.3%を上回っている。中学校は10.5%でこれも市の平均9.8%を上回っている。

中学校は痩身傾向、小学校は肥満傾向があるということに関しては、中学生は思春期、部活動等体を使うことが多いこともあるのではないかと推測だが。

6 部会長挨拶

本日はいろいろとありがとうございました。もう少し話を聞きたい部分もあったと思うが、部会だけでなく、ぜひ地域のひとりひとりの声を聞いてほしいという気持ちである。こういう輪になった中心にいるのは誰かということ、子どもたちということになるが、そのためどうなってほしいかということがとても大事ではないかと思う。

今の社会は、それぞれ皆さんがいろいろノルマを抱えて、それをやり切るのに精いっぱい、それが終わればそれで終わりという感じがしている。もしかすると、そういったいろいろな力が重なり合うことが今こそ大事だと思っている。

私の子どもの頃などは、憧れの先生とか、子どもたちに影響を及ぼす最初の親以外の大人がいて、ああいう人になりたい、だから学校の先生になるんだということがあったと思う。今もそういう子どももいると思うので、先ほどの将来に希望が持てないという子どもが増えているというのは残念である。

少なくとも秋葉区の先生、コーディネーターの皆さんが子どもたちの将来のモデルとなっていたきながら、そして盛り上げていくのが大事なのかなと思う。

世の中も便利なのか不便なのかいろいろ変わってきているが、チームワークがとても大事で、その中に子どもがいると何かやれませんかという気持ちにひとりひとりがなればよいなと感じている。

ぜひそういったことをサポートするような教育委員会、教育委員、学校のあり方などを考えていただきたいと、またこのような会を設けていただき意見交換をたくさん交わさせていただければと思う。

今後とも秋葉区の支援、新潟市の支援に力を貸していただきたいと思う。

7 閉会